



5/23~31 個人の庭と自然を楽しむ

第4回南阿蘇・庭・めぐり

個人の庭を開放して南阿蘇の自然と共に楽しむ「第4回南阿蘇・庭・めぐり」が本村と高森町の6カ所で5月23日～31日まで開催され、28,000人ももの来場者で賑わいました。

本村では、4カ所で開催。バラや雑木林、ベロニカ、オルレヤなどたくさんの花が溢れ、平日もたくさんの来場者が訪れ、南阿蘇の景観と共に楽しみ、花の名前や、育て方を質問していました。

30日には、「ナチュラルガーデン南阿蘇」隣の「如水館」で、「英国人ガーデナー」マーク・チャップマンさんを招き、「英国流癒やしの庭の作り方」と題した「ガーデントーク懇談の会」も開催されました。



キャッツミントが咲き誇った「あそ望の郷くぎの」



バラのアーチが可愛い「癒やしのガーデン subrosa」



雑木林とバラが溢れる「ナチュラルガーデン南阿蘇」



芝生の庭に花が映えた「ガーデンサロン南阿蘇」

5/23~31 新緑の季節に作品を展示

青葉の季節のアートフェスタ

南阿蘇の自然豊かな環境の中で活動するアーティストたちの作品展「青葉の季節のアートフェスタ」が、5月23日から31日まで開催され、村内15カ所のアトリエやギャラリーに多くの来場者が訪れました。

会場となった、「陶工房南阿蘇 風」(白水地区)では、創作陶器、四季折々の押し花、「アトリエ Nature」(久木野地区)では、ハンドメイドのビーズコスチュームアクセサリー、「南阿蘇 和布の家」(長陽地区)では、着物やのぼり旗をリメイクした人形や、バッグが展示され、来場者の目を楽しませる作品が数多く並んでいました。



ハンドメイドのアクセサリーが並ぶ「アトリエ Nature」



焼き方にもこだわった陶器の数々「陶工房南阿蘇 風」



のぼり旗などで作られた多くの作品を展示「南阿蘇 和布の家」

5/26 食べ物を大切にします 南阿蘇西小学校バケツ稲づくり体験

JA 阿蘇青壮年部長陽支部が、南阿蘇西小学校（後藤廣校長）の4年生（30人）とバケツ稲づくりをしました。これは、自らの手で作物を育て、どのように作物ができるかを体験し、食べ物を作る難しさを知ってほしいと同支部が企画し、2年目の取り組み。

当日は、盟友の皆さん5人が子どもたちのバケツ稲づくりを手伝い、バケツに土と水を入れた後は、ドロドロになった土の感触を確かめながら、土をこねて苗を植え付けしました。体験した子どもたちからは、「土を混ぜるのが大変だったけど楽しかった」や「ドロドロの土が気持ちよかった」と感想の声が上がりました。



JA 阿蘇青壮年部長陽支部の皆さんから話を聞く子どもたち

5/22 絶好のゴルフ日和に恵まれ 「第19回村おこしゴルフ大会」

第19回を迎えた「村おこしゴルフ大会」が、くまもと阿蘇カントリークラブで開催され、131人のゴルファーが集まりました。競技は、18Hストロークプレー・ダブルリペア方式。当日は、晴天に恵まれ、遠くは埼玉県からの参加もあり、新緑の中腕前を披露していました。

プレーの合間には、レッスンプロによるワンポイントアドバイスも実施され、クラブハウス内では、地元野菜や、村の特産品などが販売されました。

プレー終了後には、阿蘇赤牛や、村内温泉宿や、ペンションのペア宿泊券などの多数の賞品が贈られました。



楽しくレッスンを受ける参加者たち

6/2 降灰対策への活躍を期待 南阿蘇鉄道 軌陸車納車式

南阿蘇鉄道高森駅で、鉄軌道内と道路の両方を走行可能な「軌陸車納車式」が、草村大成代表取締役社長（高森町長）をはじめ多数の関係者が出席して行われました。

同車は、阿蘇中岳の噴火により、レールに積もった降灰除去作業に使用され、これまでの、人力での作業に限界があるため導入されたもの。

式で、草村町長が、「軌陸車の納車を受け、より一層の安全運行体制の構築ができると理解しています」とあいさつ。

式終了後、納車された軌陸車の実演会が行われ、この日のために、線路に積まれた火山灰を、装備されたブラシで力強く除去していました。



軌陸車の実演会で火山灰を除去する南阿蘇鉄道職員

5/27 自分たちの足で代かきを 中松小学校「ドロリンピック」

中松小学校（工藤英治校長）の5、6年生27人が、田植え前の学校田の代かき効果と、子どもたちが泥に触れ合うことを目的に、ドロリンピックを開催しました。同小は、5年生を中心に毎年米作りを実施。晴天に恵まれ、水着の上からTシャツや短パンを身に着けた子どもたちは、準備運動の後、早速水田に足を入れると、歓声を上げていました。

ゆっくり水田を歩き、2チームに分かれて「ボールリレー」や「手つなぎ鬼」の遊びで泥んこになり、大はしゃぎしていました。

最後に、バケツに入れた肥料を全員で協力して撒き、翌日田植えを実施しました。



「手つなぎ鬼」で鬼から逃げ回る子どもたち



5/31 村の魅力在全国に情報発信する新しい拠点に

道の駅「あそ望の郷くぎの」オープニングセレモニー

「あそ望の郷くぎの」が4月15日、県内で27番目に「道の駅」に新規登録され、そのオープニングセレモニーが、西野賢治国土交通省九州地方整備局熊本河川国道事務所長をはじめ、多数の来賓が出席して開催されました。

セレモニーは、「久木野太鼓」披露で開幕。同施設の管理者である藤原健志有限会社くぎのむら代表取締役社長が、「念願が叶い登録いただきました。これからも来場者が増えるよう頑張っていきたい」とお礼の言葉を述べました。セレモニー終了後には、来場者先着500人に「久木野そば」と紅白餅が振る舞われ、オープンを記念したトレッキングには62人が参加しました。



テープカットを行う関係者の皆さん



西野事務所長(右)から「道の駅登録証」を受け取る長野村長(4月27日)



セレモニーに花を添えた「久木野太鼓」

6/6 特定外来生物に対する意識を高めよう

クラブ南阿蘇サッカークラブ

特定外来生物に対する住民の意識向上と、参加する子どもたちの環境学習の場にしようと、クラブ南阿蘇サッカークラブの小学生、中学生、環境省パークボランティアのメンバーら約80人が、村内数カ所に毎年5月～7月にかけて咲き、繁殖が広がっている特定外来生物オオキンケイギクの駆除作業を行いました(環境省主催)。

オオキンケイギクは、根から繁殖するため、参加した子どもたちは、手作業で根から引き抜き2時間半で280kgものオオキンケイギクの駆除を行い、汗を流しました。



オオキンケイギクを駆除する南阿蘇サッカークラブの子どもたち

6/6 村蝶の生息環境を守ろう

東海大学阿蘇キャンパス「阿蘇は箱舟プロジェクト」

環境省のレッドデータブックで絶滅危惧種に指定され、本村の蝶でもある「オオルリシジミ」をはじめとする阿蘇地域の絶滅危惧動植物の保護、牧野の保全、「オオルリシジミ」の生息環境の復元を目的に、東海大学阿蘇キャンパスのチャレンジセンター「阿蘇は箱舟プロジェクト」の学生40人と水源の森林ボランティアや一般ボランティア10人が参加し、オオルリシジミが唯一卵を産み付ける食草であるクララ周辺の除草作業を行いました。

学生やボランティアの皆さんは、クララが自生する草原(3ha)を3時間かけ、希少な植物を保護するため除草作業に汗を流していました。



作業前に東海大学の村田教授から説明を受ける参加者の皆さん

除草作業に汗を流す参加者の皆さん



6/6~7 本格的なトレッキングも体験

南阿蘇さわやか2day ウォーク2015 in あそ望の郷くぎの

南阿蘇地域の魅力を広く伝えることを目的に、「南阿蘇さわやか2day ウォーク2015 in あそ望の郷くぎの」が開催されました。

今年は、昨年まで1日開催だった同大会を2日間の開催に変更。さらに、2日間かけて阿蘇南外輪山を歩き、宿泊がセットになった「南阿蘇満喫トレッキングコース」も新設され、県内外から多くの参加者が深緑の南阿蘇を満喫しました。

「あそ望の郷くぎの」の会場では、ステージイベントや、ゴールの後お楽しみ抽選会が行われ、あか牛商品券や村内温泉宿泊施設ペア宿泊券などが賞品として用意され、名前が呼ばれた参加者の中には、拍手が起きていました。



ポイントでクイズに答える参加者



あそ望の郷くぎのを一斉にスタートする参加者たち



東海大学「三線の花同好会」の演奏（ステージイベント）

6/15 火山噴火に関する情報も強化

平成27年度防災会議・水防協議会

「平成27年度防災会議・水防協議会」が、久木野庁舎集会ホールで開催され、陸上自衛隊第42普通科連隊など関係機関から79人が出席しました。

会議では、熊本地方気象台職員から本年度の気象見通しや、村建設課職員から村内の災害発生危険箇所について説明がありました。

気象庁阿蘇山火山防災連絡事務所からは、昨年11月25日に噴火した阿蘇山中岳第一火口での火山活動状況や、御嶽山の噴火災害を踏まえて火山情報の見直しを行なわれたことなどが説明され、本村長野地区の吉岡噴気地帯の噴気および熱活動がやや活発な状態が続いているとの報告がありました。



阿蘇山の火山活動状況を説明する気象庁阿蘇山火山防災連絡事務所職員

6/6 初夏の阿蘇をマラソンで満喫

第25回阿蘇カルデラスーパーマラソン

第25回を迎える阿蘇カルデラスーパーマラソン大会が開催され、100kmの部（参加者1,234人）と50km（参加者434人）の部で行われました。100kmの部では、午前5時に村総合福祉温泉センター「ウィナス」をスタートし、ゴールの阿蘇市総合センターを目指して深緑の阿蘇を駆け抜けました。

村内に設置されたエイドステーション（4カ所）や給水所（4カ所）では、スポーツドリンクや、バナナ、パンなどが用意され、足を止めて味わうランナーも見られました。

また、50kmの部は、阿蘇市波野支所を午前11時にスタートし、ランナーたちはゴールを目指しました。



エイドステーションでドリンクなどを受け取るランナーたち